

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体				
南区子どもウェルビーイングシステム事業				南・子育て支援課				
事業目的		事業内容		活動指標	R4	R5	R6	
子ども虐待の未然予防に力点を置く事前予防を推進していく。地域の公民関係機関と連携のもと子育て世代の子ども虐待に対する意識のボトムアップをはかる。また、子どもの一連の成長過程においての切れ目のない包括的な支援を提供するために、養育者・南区の子ども・学校等地域支援者へ子どもの権利を保障し健やかな成長を支援する事業を展開。引き続き子ども虐待対応のアプローチについても、未然予防の視点をもって取り組み、啓発をしていく。		・子どもへの支援 ・子どもの自己肯定感、自己有用感の向上を支援するプログラムを展開すると同時に、プログラムを展開できる職員のスキルの向上にも取り組む。 ・養育者への支援 ・法改正で禁止された体罰についての理解を促し、養育者が安全・安心の中で子育てができるように支援していく。 ・学校等・地域支援者への支援 ・『南区子どもサポートプラットフォーム』の仕組みを用いて、区内教育機関との連携を強化し、地域支援者と情報共有することによって地域の子どもの支援につなげていく。		参加者へのアンケートによる満足度（満足）	96.5%	94.5%	93.5%	
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性		
◎	児童福祉法が改正されしつけによる体罰は禁止となった。このことを区役所としても区民に対して継続して広報啓発が必要であると感じる。	◎	子ども虐待の未然予防は行政だけではできない。様々な関係機関との連携を模索し、区内の教育機関や地域の子育て支援者と協働し、区民にとって満足度の高い事業を進めることができた。	△	子ども虐待のニュースが流れない日はないほど子ども虐待の件数は右肩上がりではあることに対して、世間の関心はまだまだ低い。しかし、行政がインパクトをもって区民に啓発ができていないという側面もある。	△	効率性を求めて解決していく事業ではないと考える。しかし、その中でもより区民にとって自分事になるような方策を考えていく必要がある。	
⑤自立発展性		総合評価						
○	本事業の目的は子ども虐待を発生後の対応から未然に防止をすることにあり、子ども虐待の第一次予防を区民との協働で行政も取り組んでいく必要があるため、関係機関との連携なくしては発展はないと考えている。	◎	南区内認定こども園の5歳児クラスを対象とした「セカンドステップ」プログラムの実施や、養育者を対象とした前向き子育て「ポジティブ・ディシプリン」プログラム、子どもの育ち応援講演会、南区ぱぱてらす等の開催、南区内教育機関と連携した「南区子どもサポートプラットフォーム」の運用等、妊娠出産期から18歳までの子どもを養育する方やその子どもをサポートし、子ども虐待の未然予防に力点を置いた事業が充実してきている。各事業への参加者数も増加傾向にあり、参加者の満足度も高い水準で推移しているため、本事業の必要性は継続していると考ええる。					
今後の方向性（課題、改善提案等）								
拡充 継続 見直し 廃止	「子どもの育ちを応援するよ！」とテーマを掲げ5年が経過した。南区子育て支援課は子ども虐待対応について、事後対応から未然予防にすることを念頭に事業を展開している。これについては区役所として今後も継続的に取り組んでいく必要があると考える。また、令和4年9月に創設し運用を開始した「南区子どもサポートプラットフォーム」については、ワークショップの実施件数も昨年度と比較して約2倍に増加したことから、南区内の各学校の認知も進んできており、教育機関との連携の効果を実感できた。さらに、今年度は新たに依頼することができる講師の選択肢も増加した。本取り組みにおいても、継続して南区の子育て世帯をサポートできる体制を構築していく。今後の方向性としては、南区内教育機関や地域支援者との連携をさらに強化し、子ども、養育者、教育機関のニーズにあった事業を展開していく。							